

# 新しい地域福祉を目指した 街かどデイハウス「きんき茶ろん」5年間の実践報告

コミュニティサロンがもたらした新しい絆

氏名 寺田美哉子

(所属) NPO 法人きんきうえぶ

## 【目的】

「街かどデイハウス」とは、大阪府富田林市が、市民団体に委託し、高齢者の自立生活を地域で支え合う住民活動である。65才以上の介護保険を利用していない高齢者が、いつまでも地域（在宅）で、生き活きと生活できるよう、様々な活動を行っている。

「街かどデイハウス」は、高齢者の在宅での生活基盤を目的としているが、その施策のまず第一の理由は、介護保険制度破綻の回避である。

2000年（平成12年）4月1日から施行された日本の社会保険制度は、被保険者の納付する保険料だけでなく、国・都道府県・市町村による負担を財源としているという特徴を持つ。しかし、社会の高齢化に伴い、家庭を支える中年及び、若年世代の男女への負担は、大きい。

今や小さな子どもを保育園に預けて、夫婦で家計を支える家庭は多く、「イクメン」など、男女平等の家事労働や収入は、当然となっている。

また、その親世代も妻がパートで稼ぐ収入を当てに生活している家庭も珍しくは無い。

そんな社会の中で、今後、介護が必要となった高齢者を在宅で介護する家族の余裕は無く、更には、介護職や施設の不足が叫ばれる中、高齢者は、居場所を確保する事もままならない。

「街かどデイハウス」とは、そんなこれからの高齢者に、一縷の生きる望みを託した居場所である。

## 【対象】

「街かどデイハウス」は、介護保険を使っていない65才以上の高齢者を対象とした活動である。

また、「街かどデイハウスきんき茶ろん」では、中高年（40才～60才）の女性スタッフが、時給800円のパートで働いている。

街かどデイハウスきんき茶ろんを運営する「きんきうえぶ」（女性中心のNPO法人）は、パソコン事業、ICTの推進を目指して活動してきた団体であるため、スタッフは、パソコン講師でもある。

パソコン教室は、就職支援として若い人の受講もあるが、長年、続くのは高齢者の趣味としての教室である。そのため、講師がデイハウスのスタッフを兼任しているのは、違和感があるとイメージするが、案外そうでもなく、逆に介護施設独特の子どもを扱うような利用者への対応は無く、好評である。

また、ICTに遅れがちな介護関係者との連携でも貢献できる事が多く、重宝されている。

## 【活動内容】

「街かどデイハウスきんき茶ろん」の外観と周りの環境は、写真のとおりで、市内 No.1 の大型スーパーの駐車場に隣接し、地域の公園やリボン通りと言う歩道に沿ったマンションの1階である。また、駐車場を隔てた向かいに見えるマンションは、バリアフリーを売りにし、シニア層の利用が多い人気のマンションで、この周辺の住宅地は30年ほど前に開発され、1戸建てに住む家族も高齢者世帯が多い。



今やどの地域でも、40～30年前に開発されたこのような高齢者世帯のみの住宅地が急増していると考えられる。

その頃は、古い村意識を嫌って、隣近所との関わりが薄い新興住宅に越してきた若い世代が高齢を迎える時代となっているのである。

きんき茶ろんは、そのような人々を対象に、趣味の活動（パソコン教室、水彩画、パッチワーク、お料理教室など）や健康のための活動（ウォーキングやカラオケ、体操、フラダンスなど）、コミュニティのための活動（麻雀や囲碁将棋）を行っている他、格安で栄養バランスのよい昼食やコーヒーを仲間といっしょに飲食できるカフェでもある。



また、認知症予防講座を行政に提案し、iPad など、最新の端末を使った講座も地域の高齢者対象に、行っている。



人の寿命が長引くにつれ、身体だけでは無く、脳も衰えてしまう老化による認知症は、若かりし頃の隣人の人間性までも変貌させてしまう様子を見るにつれ、年を取る事に大きな不安を招いている。まだ達者なのに「認知症になりたく無い！」と、不安に涙する高齢者は、後を絶たないので、市の高齢介護課へ認知症予防の企画書を提出した所、幸運にも承認された。

これまでの認知症予防と言えば、簡単なゲームや脳トレをイメージし、プライド高い高齢者は敬遠しがちであるが、iPad は最先端の機器でもあり、パソコンに比べて、高齢者にとって使い易いツールに思える。これまでに無い使用感で iPad 自体に刺激があり、また、きんき茶ろんでは、男女一組で 1 台の iPad を使う事により、更に楽しい緊張感で、女性の笑い声も絶えない。

また、街かどデイハウスきんき茶ろんは、事務所内に「いきいきネット相談支援センター」の相談室を配備し、コミュニティ・ソーシャルワーカー（CSW: 福祉総合相談員）に、困っていることを気軽に相談できる窓口機能も備えている。

「いきいきネット相談支援センター」とは、街かどデイハウスと同じように、大阪府富田林市より委託を請けた補助事業である。

CSW は、地域の包括支援センターや在宅介護支援センターと連携し、高齢者の相談支援を行っている他、地域支援センターや社会福祉協議会とも連携し、障害者への相談支援も行っている。その他、民生児童委員や福祉委員など地縁組織とも連携し、要支援者へは、地域ぐるみで対処する「地域福祉」の考え方を推し進めている。

つまり、若い障害者や、その家族、家庭内暴力で傷ついた母子など、地域の支援を必要とする人と、支援できる人たちが出会い、助けあえるよう、地域の絆を育てている。

街かどデイハウス開設当初は、まだ元気な高齢者に、何故このようなサービスが必要なのか？疑問視される声もあったが、この 5 年間で、現代、そしてこれからの高齢者には、このような仕組みが、調度ふさわしく、最も利用し易いスタイルであると、痛感している。

富田林市の街かどデイハウスの現在の補助金額は、1 ヶ月 25 万円であるが、その他、介護予防体操、1 ヶ月（4 回実施で）5 万円、認知症予防講座 1 ヶ月（4 回実施で）5 万円である。

家賃 17 万円や、講師スタッフへの支払、水道光熱費を差し引くと全く余裕は無いが、それで、延べ 150 名ほど（実質

80 名ほど）の高齢者が通っている。（登録は 260 名）

当初、1 中学校区に 1 事業所が、予定されたが、採算が取れず、辞退する街かどデイハウスも現われ、継続には工夫が必要であった。スタッフや利用者の協力は元より、空いている時間をパソコン教室に利用したり、夜も iPad を利用した学習教室を実施している。



特に、パソコン勉強会は、高齢者に好評である。



また高齢者に必要と感じる携帯電話教室、災害用伝言板体験教室は、街かどデイハウス開設当初より続け、今年の 3 月から、「災害時に役立つケータイ電話講習会」と義捐金活動に変えて行った。そして、NHK のクローズアップ現代より取材を受けるに至った。

高齢者がテレビのデジタル化に対応できるよう、地デジ説明会も数回実施した。



高度経済成長期、地域とは無縁に、身を削って働き、日本の今を築いた夫やそれを支えた妻が、孤立する事無く、また社会に気兼ねなく、人生を全うしていただきたいと、心より願う。

このような願いを持った草の根の活動を行う NPO が、絆となり、全国に街かどデイハウス事業を展開されることが、今後の高齢社会に希望を与えると考え、ここに提案したい。